

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 円谷フィールズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2767 URL <https://www.tsuburaya-fields.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 英俊
 グループCEO
 問合せ先責任者(役職名) 取締役グループCFO (氏名) 小澤 謙一 (TEL) 03-5784-2111
 配当支払開始予定日 一
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	154,617	58.2	18,531	97.3	18,937	76.0	13,439	109.2
2025年3月期第3四半期	97,764	△20.6	9,390	△23.8	10,759	△20.0	6,424	△32.6

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 13,937百万円(76.2%) 2025年3月期第3四半期 7,909百万円(△16.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	215.97	215.34
2025年3月期第3四半期	102.84	102.55

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	141,766	67,121	43.6
2025年3月期	98,953	56,247	51.6

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 61,774百万円 2025年3月期 51,044百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 一	円 銭 0.00	円 銭 一	円 銭 50.00	円 銭 50.00
2026年3月期	円 銭 一	円 銭 0.00	円 銭 一	円 銭 50.00	円 銭 50.00
2026年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	170,000	20.9	18,000	17.7	18,300	11.2	12,800	14.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2025年9月30日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 無
② ①以外の会計方針の変更	: 無
③ 会計上の見積りの変更	: 無
④ 修正再表示	: 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	65,429,150株	2025年3月期	65,429,150株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	3,188,105株	2025年3月期	3,212,700株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	62,228,571株	2025年3月期3Q	62,477,849株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」およびP.5「（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

・機関投資家・アナリスト向けの説明会は当第3四半期では開催いたしませんが、通常説明会で配布する資料等については、決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
(3) 財政状態に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期（10-12月）におけるわが国の経済は、輸出の持ち直しに加え、個人消費や設備投資にも回復の兆しが見られ、全体として堅調に推移しました。一方で、物価の高止まりが続き、物価上昇を示すコアCPIも高い水準で推移しました。海外では、各国の貿易政策の変化やその不確実性の高まりから投資活動が弱まり、日本の輸出も伸び悩むなど、外需は総じて弱含みとなりました。

2026年2月8日に実施された第51回衆議院議員総選挙では、自民党が大幅に議席を伸ばし、現政権が強い信任を得ました。今後、物価高対策や税制改革、外国人政策、AI・半導体分野を中心とした成長戦略などの政策が継続して推進される見通しです。これにより、家計支援策を通じた個人消費の下支え、企業コストの安定化、成長分野への投資促進など、企業活動を取り巻く環境の改善が期待されます。

このような事業環境のもと、当社の注力分野であるエンターテインメント・コンテンツ市場においても、消費マインドの改善やプロモーション環境の整備が進むことで、今後の事業拡大に向けて追い風となることが期待されます。

当社グループは、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念のもと、持続的な成長と長期的な企業価値創出に向けた取り組みを当該期間も着実に推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高154,617百万円（前年同期比58.2%増）、営業利益18,531百万円（同97.3%増）、経常利益18,937百万円（同76.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益13,439百万円（同109.2%増）となりました。

各事業セグメントの概況は、以下の通りです。

コンテンツ&デジタル事業セグメント

(株)円谷プロダクションの第3四半期連結累計期間の状況は以下の通りです。

売上高は7,319百万円（前年同期比20.7%減）、うち主要なカテゴリ（ライセンス／MD（物販）／映像・イベント収入）の合計は6,679百万円（前年同期比24.9%減）となりました。

「ウルトラマン」IPは、国内外で引き続き高い支持を得ているものの、中国市場において主力商品のライセンス収入の減少が続いたことが響き、減収・減益となりました。一過性のヒット商品の販売ピークが過ぎ、商品入れ替えの端境期にありますが、当社はトレーディングカードやブロック玩具を中心に新商品の投入および商品ラインアップの刷新を進めており、市場ニーズへの対応力強化を図っております。

また、当該期間においては、台湾情勢をめぐる日本側の発言に対し中国側の反発が報じられ、中国本土における日本関連エンターテインメントの一部で、公演中止・延期が確認されました。現時点で当社の連結業績に与える影響は限定的と見込んでおりますが、許認可運用や開催環境の変化に伴う不確実性には留意が必要と認識しております。当社は、現地パートナーとの連携強化とリスクモニタリングを継続しつつ、地域分散による事業ポートフォリオの安定化に努めてまいります。

カテゴリ別の内訳は以下の通りです。

<ライセンス収入：3,314百万円（前年同期比42.0%減）>

(単位：百万円)

	2024年4月-12月 (前第3四半期連結累計期間)	2025年4月-12月 (当第3四半期連結累計期間)	増減率 (%)
合計	5,715	3,314	△42.0%
海外	4,919	2,586	△47.4%
うち中国	4,407	2,073	△53.0%
うち北米・アジア等	511	513	+0.5%
国内	796	727	△8.6%

<海外>

中国市場においては、前述のとおりライセンス収入が前年同期比で減少いたしました。

<国内>

国内においては、前年同期に計上された「グリッドマン」等の関連収入の反動減を主因に、当期のライセンス収入は減少いたしました。足元では、「ウルトラマンシリーズ放送開始60周年」記念事業に関連する各種施策が進展しており、20を超えるIP・企業との新たなコラボレーションが具体化しております。

<MD（物販）収入：1,125百万円（前年同期比12.4%増）>

(単位：百万円)

	2024年4月-12月 (前第3四半期連結累計期間)	2025年4月-12月 (当第3四半期連結累計期間)	増減率 (%)
合計	1,001	1,125	+12.4%
海外	239	329	+37.7%
国内	761	795	+4.5%

10月末に1周年を迎えたウルトラマンカードゲームは、ラインアップ強化により国内外でのMD（物販）収入が増加いたしました。節目となる10月末には、第5弾「勇輝の黎明」を投入し、好調な販売を記録しております。また、2026年5月の世界大会に向け、国内外での予選大会・公式イベント、商品展開を連動させた総合的な取り組みを推進しております。

<映像・イベント収入：2,239百万円（前年同期比2.8%増）>

(単位：百万円)

	2024年4月-12月 (前第3四半期連結累計期間)	2025年4月-12月 (当第3四半期連結累計期間)	増減率 (%)
合計	2,179	2,239	+2.8%
海外	672	678	+0.8%
国内	1,506	1,561	+3.7%

当期の映像・イベント収入は、隔年秋開催の『TSUBURAYA CONVENTION 2025』、『ウルトラヒーローズEXPO 2025（夏・冬）』での観客動員数の増加を主因に増収となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるコンテンツ&デジタル事業セグメントの売上高は10,762百万円（前年同期比16.4%減）、営業利益は922百万円（同67.0%減）となりました。

アミューズメント機器事業セグメント

当第3四半期連結累計期間におきましては、有力IPを搭載した複数機種の販売が好調に推移したことに加え、『L 東京喰種』の増産ニーズに対応した結果、販売台数は約25.5万台（前年同期比93.8%増）となりました。これにより、市場販売台数に占める当社シェアは約20.3%（当社調べ）となりました。

特に、12月に販売した『e 新世紀エヴァンゲリオン～はじまりの記憶～』は、テレビCMやSNSをはじめとした積極的なプロモーションに加え、導入店舗約2,000店に対し専用景品コーナーの設置を提案する等、パーラーの集客最大化に向けた各種施策を実施いたしました。また、第4四半期に向けた販売も堅調に推移しており、通期業績計画の達成に向けて着実に進捗しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるアミューズメント機器事業セグメントの売上高は142,974百万円（前年同期比70.0%増）、営業利益は20,153百万円（同135.1%増）となりました。

[遊技機販売台数]

	2024年4月-12月 (前第3四半期連結累計期間)	2025年4月-12月 (当第3四半期連結累計期間)	増減率 (%)
パチンコ	69,484台	128,209台	+84.5%
パチスロ	62,468台	127,534台	+104.2%
合計	131,952台	255,743台	+93.8%

[当累計期間の主な販売タイトル]

区分	主な販売タイトル	販売台数 (万台)
パチンコ	e シン・ウルトラマン	12.8
	e 東京喰種	
	e 犬夜叉3.0	
	e ベルセルク無双 第2章	
	e 新世紀エヴァンゲリオン～はじまりの記憶～	
パチスロ	Lパチスロ 機動戦士ガンダムSEED	12.7
	L ULTRAMAN	
	スマスロ デビル メイ クライ5 スタイリッシュトライブ	
	L 絶対衝激～PLATONIC HEART～	
	L Bパチスロ エヴァンゲリヲン～約束の扉～	
	L ダーリン・イン・ザ・フランキス	
	スマスロ 新鬼武者3	
	L 絶対衝激IV	
	L 無職転生～異世界行ったら本気だす～	
合計		25.5

その他事業

その他事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,355百万円、営業利益30百万円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、2025年10月31日付「2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信」にて公表いたしました内容に変更はありません。

当社は、2024年11月14日付で公表したダイコク電機株式会社との業務提携に基づき、双方の市場分析およびマーケティングのノウハウを活用し、業界の発展に資する新たな製品・サービスの創出に向けた取り組みを進めております。現在、本提携に基づく各種施策は着実に進捗しており、AIを活用したホール運営支援やパーソナライズ広告などの新サービスの提供準備を進めているほか、両社のIPを相互活用した遊技機の共同開発・販売、ならびにダイコク電機製ホール設備の販売強化に向けた取り組みも進行しております。今後も、両社の強みを組み合わせた協業体制のもと、製品・サービスの拡充と業界の発展に資する価値創出を継続してまいります。本件の詳細については、同日開示した適時開示資料をご参照ください。

あわせて、当社グループでは中長期的な視点から、IPビジネスを中心とした事業基盤の強化にも取り組んでおります。日本発のIPは世界的な評価が高まっており、映像配信、ライセンス、MD(物販)、イベントなど様々な形で各地域への展開が広がっています。当社グループは、上場以来20年以上にわたり構築してきたIPビジネスの知見を基盤に、「ウルトラマン」IPを中心としたグローバル展開や、アミューズメント機器事業におけるIP取得力・商品開発力・販売力の更なる強化に取り組んでおります。引き続き、有力IPの価値最大化に向け、国内外でのMD(物販)展開の具体化を進めるとともに、各事業の強みを連携させることで、コンテンツの多様な領域で事業を展開できる体制の整備を着実に推進してまいります。

(注1) 本短信に記載の数値は各社・各団体の公表値または当社推計によるものです。

(注2) 本短信に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(3) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、112,109百万円と前連結会計年度末比42,268百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金および売上債権の増加によるものです。

有形固定資産は、10,295百万円と前連結会計年度末比64百万円の増加となりました。

無形固定資産は、2,312百万円と前連結会計年度末比196百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、17,049百万円と前連結会計年度末比283百万円の増加となりました。

以上の結果、資産の部は141,766百万円と前連結会計年度末比42,812百万円の増加となりました。

(負債)

流動負債は、61,019百万円と前連結会計年度末比34,249百万円の増加となりました。これは主に仕入債務の増加によるものです。

固定負債は、13,625百万円と前連結会計年度末比2,310百万円の減少となりました。これは主に長期借入金の減少によるものです。

以上の結果、負債の部は74,645百万円と前連結会計年度末比31,939百万円の増加となりました。

(純資産)

純資産の部は、67,121百万円と前連結会計年度末比10,873百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	30,954	36,512
受取手形、売掛金及び契約資産	12,809	36,735
電子記録債権	4,342	4,008
商品及び製品	697	1,373
仕掛品	10,960	14,712
原材料及び貯蔵品	3,733	3,674
商品化権	3,323	6,775
その他	3,026	8,328
貸倒引当金	△7	△11
流动資産合計	69,841	112,109
固定資産		
有形固定資産		
土地	5,664	5,605
その他	4,565	4,689
有形固定資産合計	10,230	10,295
無形固定資産		
のれん	1,115	904
その他	1,001	1,407
無形固定資産合計	2,116	2,312
投資その他の資産		
投資有価証券	7,831	8,148
長期貸付金	1,354	1,604
その他	8,413	8,097
貸倒引当金	△833	△801
投資その他の資産合計	16,765	17,049
固定資産合計	29,112	29,657
資産合計	98,953	141,766
負債の部		
流动負債		
支払手形及び買掛金	13,715	43,105
電子記録債務	1,235	2,558
短期借入金	900	909
1年内返済予定の長期借入金	2,207	2,028
未払法人税等	1,616	3,606
賞与引当金	441	297
役員賞与引当金	195	138
その他	6,458	8,374
流动負債合計	26,770	61,019
固定負債		
長期借入金	8,033	6,565
役員退職慰労引当金	31	32
退職給付に係る負債	2,342	2,384
資産除去債務	1,302	1,323
その他	4,226	3,318
固定負債合計	15,935	13,625
負債合計	42,706	74,645

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	9,289	9,306
利益剰余金	37,520	47,849
自己株式	△3,415	△3,389
株主資本合計	51,342	61,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△356	△9
為替換算調整勘定	△8	13
退職給付に係る調整累計額	65	55
その他の包括利益累計額合計	△298	59
新株予約権	306	309
非支配株主持分	4,897	5,037
純資産合計	56,247	67,121
負債純資産合計	98,953	141,766

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	97,764	154,617
売上原価	74,052	120,359
売上総利益	23,712	34,257
販売費及び一般管理費	14,322	15,726
営業利益	9,390	18,531
営業外収益		
受取利息	17	32
受取配当金	127	292
仕入割引	19	49
持分法による投資利益	1,170	28
出資分配金	9	19
その他	188	134
営業外収益合計	1,532	557
営業外費用		
支払利息	69	108
減価償却費	20	10
その他	73	31
営業外費用合計	163	151
経常利益	10,759	18,937
特別利益		
固定資産売却益	0	54
投資有価証券売却益	39	–
その他	–	2
特別利益合計	39	57
特別損失		
固定資産除却損	5	12
減損損失	–	161
関係会社株式売却損	162	–
その他	1	–
特別損失合計	168	174
税金等調整前四半期純利益	10,630	18,820
法人税等	2,855	5,236
四半期純利益	7,774	13,583
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,349	144
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,424	13,439

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	7,774	13,583
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	130	342
為替換算調整勘定	9	22
退職給付に係る調整額	△4	△10
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	-
その他の包括利益合計	134	354
四半期包括利益	7,909	13,937
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,555	13,798
非支配株主に係る四半期包括利益	1,353	139

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	835百万円	1,240百万円
のれんの償却額	210〃	210〃

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	アミューズ メント機器 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,545	83,955	96,501	1,263	97,764	—	97,764
セグメント間の内部売上高又は振替高	325	155	481	0	482	△482	—
計	12,871	84,111	96,983	1,264	98,247	△482	97,764
セグメント利益	2,794	8,570	11,364	12	11,376	△1,986	9,390

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△1,986百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,987百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	アミューズ メント機器 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,428	142,840	153,268	1,348	154,617	—	154,617
セグメント間の内部売上 高又は振替高	334	133	468	7	476	△476	—
計	10,762	142,974	153,737	1,355	155,093	△476	154,617
セグメント利益	922	20,153	21,076	30	21,106	△2,574	18,531

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△2,574百万円には、セグメント間取引消去△139百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,435百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「P S事業」としていたセグメント名称を「アミューズメント機器事業」に変更しています。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の名称で記載しています。